

さわやかタイムカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

一隅を照らす十島の教育

七月…^{あこが}憧れづくり

十島村教育長 原口 英典

7月20日、21日の二日間にわたって、本県でも今年の教員採用試験が実施された。今年の問題は、どのような内容だったのかまだ公表されていないが、ある雑誌に、受験しようとする若者に、「教育の目的は、何という法律の第何条に何と謳われているか」と問うたところ、正確な答が完全な形では返せないままの受験生もいたという。

正規の教職にある人たちにとっても、ひょっとしたら完全な文言では言えない人もいるかも知れない。年に一度くらいは、教育基本法の条文に立ち返って、子どもの前に立つことの重さと深さをかみしめるのも大事なのではあるまいか。我が職の拠って立つところの基本理念に、時々、立ち戻ってみるべきなのかも知れない。

ところで、そのような原点を踏まえた上での、ある人との語りの中で、その人が言うには、「教育って、詰まるところ、分かりやすい言葉で言えば『憧れづくり』なのかも知れないね」と。一人一人の子どもたちの心に、「自分は、あんな人になりたいな」「あんな人のように生きたいな」という「あんな人」の存在を息づかせることだという。それが身近な同級生であればいい。また、身近な先生や家族であればいい。

今日も悲しいニュースが流れている。16歳の少女が、同級生を殺めたという。あの子どもたちの心には、どんな人物像が憧れの存在として息づいていたのだろう。また、学校教育という名の下に、どのような「憧れ」を胸に刻ませてきたのだろう。

「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民」として、それぞれが抱く「憧れ」の存在を、固有名詞でもいい、「憧れ」る生き方としてもいい、そんな「憧れ」を自覚させる教育を、さらに推し進めていきたいものだ。

はまなすや今も沖には未来あり(草田男)

【セブンアイランド図書館の御利用を！】

読書は心の栄養源。児童・生徒の皆さん、夏休みは、たくさんの本で心のスタミナを身に付けてみませんか。

【人権同和問題啓発強調月間8月1日～8月31日】

みんな心に自分だけの花をもっている

人権・同和問題を正しく理解し、人権の意義・尊重の重要性について正しい認識を持つべく、「人間の誇り」「人間の尊厳」を共に考える機会にしてみませんか。

【小宝島分校体育館完成！】



6月15日に完成した小宝島分校体育館の落成式が、7月6日に行われました。肥後正司村長をはじめ、たくさんの来賓の方々、島民の方々の出席のもと、無事終了。子どもたちは早速ドッジボール大会を行いました。

【十島村山海留学生父母研修会 7月27日(土)】



山海留学父母会(会長:用澤満男氏)の研修会が、里親(含希望者)・実親・学校関係者の出席のもと、講演や情報交換、質疑を中心に行われました。実親の一人は、夏休みに入り、実家に帰省した我が子の島での成長ぶりに感激し、涙を流しながら、山海留学生制度の意義、里親さんへの感謝の思いを述べていました。

【十島村教育研究大会開催 7月25～26日】



鹿児島市勤労青少年ホームで第38回十島村教育研究大会が開催されました。原田前教育長の講演もあり、今後の更なる資質向上を目指し、実践発表・意見交換等がなされました。

灯

シリーズ 十島の学校にやってきて 平島中学校3年 久保田 優也

今年四月に平島に来た久保田優也です。平島へ出発する時、友達ができるか不安で、前の友達と離れるのは少し嫌でしたが思い切って出発しました。

最初は、不安もありましたが、今は、友達と仲良く楽しく生活しています。

この島でやってみたいことは、思いっきり海で遊ぶことです。この海はとてもきれいで、すきとおっているの、たくさん泳ぎたいです。そしていい思い出にしたいです。

今年僕は受験生なので、勉強を頑張りたいです。平島中学校は人数が少ないので、一人一人をしっかり先生が見てくれるし、分からないところがあったらすぐ聞けるのでとてもいいです。高校受験に合格できるように勉強していきたいです。

絆

シリーズ 山海留学生として学ぶ

成長した自分

小櫻 育生 現在高校1年生<鹿児島県>

僕が山海留学生として初めてこの島に来たのは小学五年生の時です。その時の僕は、新しく物事を始めたり、挑戦することができませんでした。僕はたくさん挑戦し、経験を積み、大きく成長したいと思っていました。この島に来たのもそのような理由からでした。

僕は小学三年生の時、この島に母親と二人で一度転入しました。そしてその一年後、また鹿児島市内に引っ越しました。島の友達と別れ、新しい市内の学校で過ごすのは正直嫌でした。そこで山海留学の話聞いた僕は五年生の二学期に再び諏訪之瀬島に行くことを決意しました。少し不安もありましたが、また島の友達と会えると思うとその不安も薄らぎました。

留学したばかりの頃の僕は泳ぐことが上手くできず嫌いでした。特に海は水中に何かいそうで怖くて大嫌いでした。しかし、この島は都会より泳ぐ機会が多いです。だからよく海で泳ごうと島民の方々に誘われます。その時みんなとても楽しそうに泳いでいました。僕もあんな楽しそうに泳げたらと思い、ある時思い切って海に飛び込みました。(8月号に続く)

【子どもたちの作品】(南日本新聞「子供のうた」H25.4.1)

桜 宝島小学校小宝島分校 6年生 森 文音

桜はピンクの雨のよう 入学式にピンクの雨がひらひらとふる きれいなピンクの雨がやむと人々は少し残念に思う 毎年毎年ピンクの雨が季節のおとずれを おしえてくれる

友達

(南日本新聞「子供のうた」H25.4.27)

宝島小学校 5年生 中村 久光

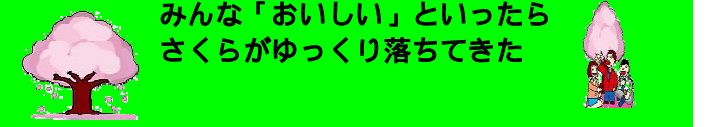
友達がいると楽しいな だっていっしょに遊べるからでも けんかしちゃったら楽しくないでも 仲直りすれば やっぱ楽しい 友達っていいな

春がきた

(南日本新聞「子供のうた」H25.5.24)

宝島小学校小宝島分校 3年生 東 桃香

春が来た 春が来た 春はあたたかいかぜがふく さくらもさく さくらの下でお花見ができる さくらの下ではさくらやもちや 花見弁当を食べる みんな「おいしい」といったら さくらがゆっくり落ちてきた



十島村の小・中学校からのメッセージ

宝島小学校 教諭 隅 康代

「13時間かけてこの光景に会いに来たんだ。」私は、心からそう思いました。2年前の4月2日たくさんの方々の出迎えにびっくりしました。どの島でもいろいろな出迎え式があり、私はフェリーからずっとそれぞれの島を見ていました。これまでの学校と異なり、小・中学校併設という環境も初めてで不安でしたが、同僚の先生方・児童生徒・島民の皆さまに温かく迎えていただき、その不安もすぐなくなりました。

少ない児童との授業ですが、どの児童も「先生もっと勉強したいよ。」と目を輝かせています。「よし、この問題難しいけれどチャレンジしてみよう。」と少人数だからこそできることもたくさんあります。また、少人数だからこそ、児童のわからないところを担当がしっかりと認識でき、指導も理解するまでしっかりとできます。

小学校と中学校が協力しなければ連携も取れないので、これまで知らなかった中学校での学習指導・生徒指導などを見たり質問したりできるのもこの十島村だからこそだと思います。

病院など不安なこともあります。診療所の看護師さんに話をするだけでも不安が減っていきます。飲食店などありませんので自炊が基本となりますが、同僚といろいろ持ち合せて食事をするのも楽しみの一つです。また素晴らしい自然の中で、ゆったりとアウトドアを楽しめるのもここ十島村ならではの良さだと思います。

最近ブロードバンドも整備され、欲しいものはインターネットで購入することも簡単です。パソコン等で分からないときでも、パソコン支援員の方が見てくださいます。

生活に慣れると、あまり不便と感ずることはありません。

教員仲間である「あなた」への私からのメッセージ

不便ではありますが、人と人との関わりを大切にしながらも、一人の個としての自分が育っていくような気がします。これまでよりも、自立した生活をしようと努力しています。素直な子どもたち・温かな島の方との交流もとても楽しいです。島での生活を、ぜひとも体験して欲しいです。